

都道府県別賞一等

「備え」の大切さ

島根県 江津市立青陵中学校 三学年

植森 香里奈

私は、生命保険の大切さに気づいたことがあります。それは、「三つの保障」の役割を知ったことです。身の回りには、病気やケガをしたり、介護が必要になったり、亡くなってしまうたりと予期しない出来事が突然起こる可能性が常にあります。

このような「もしも」のときに、お金に困らないように備えておくのが「保障」です。今までの自分とは関係のないものと思っていましたが、生命保険が実はとても身近なものだったことに気づかされました。さまざまな「商品」があり、現在国内で生命保険を契約している二人以上の家族の割合は約九割というデータがあります。

もはや、私たちのくらしに不可欠な商品といってもよいでしょう。「保障」には国などと国民が支え合って備える社会保険（公的医療保険、公的年金保険、公的介護保険など）を中心とした「公的保障」、勤め先から受けられる企業年金や退職金などの「企業保障」、そして自分自身で備える預貯金や民間保険などの「私的保障」の三つがあり、生命保険は「私的保障」に含まれます。もしものときに支えてくれるものだとなりました。

また、保険は単にお金の保障だけでなく、残された家族への「想い」を形にするものでもあると知りました。もしも自分に何かあったときに、家族が困らないようにという気持ちで、保険加入という行動につながっているのです。そう考えると、保険というのはただの金融商品ではなく「家族を思いやる優しさ」なのだと感じました。

私の父も、私や母、妹、弟の将来を考えて保険に入ってくれているのだと思います。そのおかげで、もし何かあったとしても、私たちは生活を立て直すことができますかもしれません。もちろん、実際にそうなるのは悲しいことです。でも、「準備してくれている」という事実が、今の私たちに安心感を与えてくれているのだと気づきました。一方で保険に入ることはお金がかかります。保険料は毎月支払う必要があり、決して安いものではありません。家計の中でその出費をどう考えるか、バランスを取ることも大切です。また、保険は長期間にわたる契約なので、内容をよく理解せずに入ってしまうと、いざというときに思っていた保障が受けられないこともあるそうです。だからこそ、しっかりとした情報収集と理解が必要なのです。

第63回中学生作文コンクール

今回、生命保険について書いてみて、私はこれまで意識してなかった「備え」の大切さが分かりました。若いうちはあまり気にしないことかもしれないかもしれませんが、大人になるにつれて、万が一に備えることの意味が重くなっていくのだと思います。保険とは、不安を取り除くだけでなく、「生きること」を前向きにする仕組みでもあるのです。

私はまだ学生ですが、将来、自分の家庭を持ったときには、私の大切な人のために、しっかりと生命保険について考える大人になりたいと思います。そして、日々の当たり前の生活が、どれほど大切でかけがえのないものか、これからも忘れずにいたいのです。